

明日に向かつて ともに創る

大船渡市長 戸田 公明

123

震災後に始まった新しい農業の紹介

市内では、被災跡地を活用した全く新しい農業が始まっており、各界から高い評価をいただいています。本号では代表的な3事例を紹介します。

■大規模トマト栽培施設

東日本大震災で被災した末崎町大田団地は、面積の半分以上が災害危険区域に指定され、被災跡地を活用した復興事例として産業用地に生まれ変わりました。現在は、農業法人が国の補助金を活用し、大規模トマト栽培施設（オランダ製鉄骨造のビニールハウス約15,000㎡、管理棟など約2,000㎡、統合環境制御栽培システム）を整備し事業を行っています。

施設内ではハンギングガタ方式によるトマトの通年生産、収穫、選別、箱詰、出荷の一連の作業が行われています。地元雇用者は約40人、トマトの年間出荷量は約500トンであり、主に首都圏方面へ出荷されています。

稼働後は、被災跡地利活用の優良事例として、多くの国や県の関係者が見学に訪れ、事業者

とともに説明・案内させていただきました。令和5年度には、越喜来浦浜地区にも第2栽培施設が整備される見込みです。

■夏イチゴ栽培施設

2つ目は、越喜来浦浜地区の被災跡地に整備された夏イチゴ栽培施設（木骨平屋建てビニールハウス約4,200㎡、複合環境制御栽培システム、事務所棟）です。

イチゴの旬は一般的には冬場です。菓子業界においては1年中需要がありますが、夏秋期の国内生産量が少ないため、ほとんどを輸入しています。事業者がそこにビジネスチャンスを見出し、夏イチゴの産地化について試験研究され、国などの補助金を活用して、施設を整備し起業したものです。

敷地は、地権者の了解を得て市で買い取った土地と、周辺の民有地をひとまとめの土地とし、敷地造成（復興交付金活用）の上、事業者が賃貸されています。令和元年度より、市内をはじめ首都圏などの多くの菓子メーカーに出荷されています。

■アクアポニクス事業（水産養殖 Aquaculture）と水耕栽培 Hydroponics の造語

3つ目は、大船渡浄化センター内におけるアクアポニクスによるチョウザメ養殖とレタス栽培の取り組みです。浄化センターは、当初計画された4つの処理系列のうち、2系列が整備され稼働していますが、新技術による機能強化を行ったところ、2系列のままでも対応できる見通しが立ったことから、民間事業者が余った敷地を賃貸し事業化したものです。

原理は、市の水道を利用しチョウザメ養殖（キャビア）をしながら、養殖池水をバイオ処理し、栄養源にしてレタスを栽培するもので、下水道処理場用地の利活用による国内初の新しい養殖農業施設（約2,700㎡、複合環境制御栽培システム）です。本年7月に完成し、10月から出荷を開始する予定です。

このように、被災跡地を活用しながら最先端の技術・設備を導入した生産性の高い農業が始まっています。復興とは単に以前に戻すだけでなく、将来に向けより良い方向に立て直すことです。このような取り組みは事業者の果敢な挑戦、地権者・地域のご理解、国の支援などにより実現しています。改めて、関係者の皆様に敬意を表します。

市制施行70周年記念事業

国際シンポジウムおよび英語交流会を開催します

■海洋環境に興味がある人へ…

「オーストラリアに学ぶ国際シンポジウム」

- ▷日時＝7月27日(水)午後2時から4時
- ▷会場＝リアスホール マルチスペース
- ▷講演内容＝タスマニアのサケ養殖と海洋生態系
- ▷講師＝ドナルド・ジェフリー・ロス氏（タスマニア大学海洋・南極研究所准教授）
- ▷その他＝事前の申し込みは不要。日本語への通訳があります。

■海外の文化や英語が好きな中高生へ…

「中高生の国際交流

～オーストラリアってどんなところ？～

- ▷日時＝7月28日(木)午後2時から4時

- ▷会場＝リアスホール アトリエ
- ▷内容＝オーストラリアでの生活や文化などをテーマとした英語での交流
- ▷講師
 - ドナルド・ジェフリー・ロス氏（タスマニア大学海洋・南極研究所准教授）
 - トム・クライネン氏（在日オーストラリア大使館参事官）
- ▷対象＝市内にお住まいの中学生、高校生
※英語が話せなくても構いません。
- ▷定員＝20人程度（先着順）
- ▷申込締切日＝7月15日(金)
- ▷申込先・問い合わせ先＝水産課（☎内線371）